

防災教育の強化として、地元小中学校を対象とした防災学習「降雨体験」

防災学習【岩手河川国道事務所と岩手県立大学との共同実施】

平成29年10月11日、岩手町立川口中学校の校庭において、岩手県立大学総合政策学部と共同で、降雨体験装置を使った防災学習を実施しました。

（参加者 川口中学校全校生徒110名、川口小学校6年生26名、久保小学校5・6年生7名、地域の方々）

降雨体験装置により、1時間当たり10mmから200mmまでの雨を体験した生徒からは、「(200mmの雨は)思ったよりも強くて、すごく冷たかった」、「(200mmの雨は)傘があっても、少しきつい。危険なところを把握して近づかないことや、早く避難することが必要だと思った」などの感想がありました。

降雨体験の後は、グループごとに感じたことなどをまとめるワークショップが行われ、生徒たちは大雨に備え、防災意識を高めていました。

降雨体験装置による防災学習

(平成29年10月11日 岩手県立川口中学校)



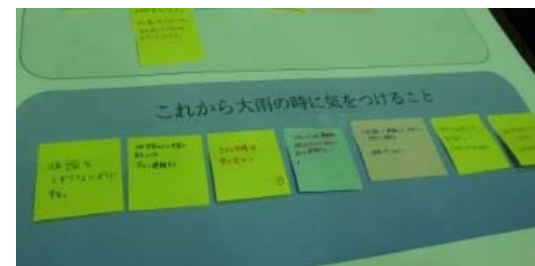
▲大雨の際の注意点の説明



▲グループに分かれワークショップ



▲岩手県立大学 伊藤教授による講演



▲ワークショップで出された意見

雨の違い
を体感

▲1時間当たり50mmの降雨体験

▲1時間当たり200mmの降雨体験